

次の文章を読んで、これに対するあなたの意見を六〇〇字以内で記しなさい。

(原文に適宜に中略を加え、改行も一部改変してある)

(前略) 赤ん坊は、泣くか笑うか怒るかしか自分を表現する力がありません。でも成長して大人になっていくにつれ、自分にとって快適な状況を作るためには、自分の考えを相手に伝え、説得し、協力してもらわなくてはならなくなります。そこで何とかするのは、君たちです。良い方法があります。一度ためてみてはどうでしょう。

まず、今の自分にとって嫌なこと困ったこと腹の立つことを口に出して言ってみる。次にそれを個条書きに書き出してみるのです。これが第一歩ですが、ここまでなら小学校低学年でも出来るのではないのでしょうか。問題は次のステップ。その嫌なこと困ったことの原因を探るのです。なぜそんなことが起きるのかを考え、それぞれの嫌なことの下にさらに原因の個条書きを付けていくのです。さて原因が見つかりました。では次に、解決方法を考えてみます。どうすればその原因を取り除けるかです。この部分はとても大事です。ほとんどは、どうにもならないことばかりです。でもどうせ駄目だと思っても、やってみるのです。

さて、せっかくここまでやった作業です、誰かに読ませましょう。話のわかる友達でもいいけれど、大人の代表はやはり親か先生なのだから、そっちに渡すのが効果的です。困ったことの種類によって、渡す相手を先生にするか親にするか、考えた方がいいかもしれませんね。さあ、あとは反応を待つのみです。「あの報告だけど．．．」と親か先生が声をかけてきたらしめたものです。何しろ気持ちを整理し個条書きにするなんて、フツウの大人も出来ないことです。相手は一目置くはず。何も考えずに生きてきた大人たちはギョッとするだろうし、おまけにこのところ少年犯罪などにも脅えていますから、真剣に読むのではないでしょう。

驚いた大人が、不平不満の解決方法をそのまま受け入れてくれたらラッキーですが、大人がどんなに努力して叶えてあげたいと思っても不可能なことがあります。お金の問題や、家族の病気、家が狭いとか、いろいろです。その場合も親はきちんと説明しなくてはならないし、君たちもことん尋ねればいい。その上でがまんするしかありませんが、でも、言わないより言っておいた方がいいのです。また、漠然と「まだ子供だから」という理由でダメと言われることもある。その場合は例の個条書きの方法で、尋ねてみましょう。

こうしたやりとり(コミュニケーションによって状況を変えていく)の基本は言葉です。気持ちを整理しながら言葉にしていって、つまり自分を言葉で表現し、説明する能力が必要になってきます。個条書きの文章といえども上手下手があつて、親や先生に「なるほど」と思わせるものの方が効果があるのは当然です。個条書きで自分を表現することに慣れたら、少し長い文章がいいでしょう。語彙も増えてきて、言葉で相手を説得し自分の希望を実現する喜びが、わかつてくれば、百人力です。

これからは、言葉による表現力こそ、生きていく上での強い武器です。知力、体力、経済力より、人間を柔軟に強くしてくれます。言葉で他人を説得できる人間は、説得されるのも上手になるから、簡単にはキレないし、孤立もありません。その一步を踏み出すつもりで、今の自分の心の内を、とりあえず個条書きにして書いてみませんか。